

# いわて平泉米だより

今月は田植え前後の管理についてポイントを説明します！

田植えは天気の良い風の弱い日に行い活着を促しましょう。また、地域や品種毎に適期が異なるため、極端な早植えや遅植えにならないよう注意しましょう。

## 《病害虫&雑草防除》

### ○薬剤による防除

田植時に初期害虫および葉いもち病予防のためツインターボ箱粒剤08（1箱当り50g）を育苗箱にまんべんなく施用して下さい。除草剤の効果は散布時期と水持ちによって決まります。薬剤の使用時期を確認し適期に使用し、畦畔からの漏水に注意する等、水管理を徹底してください。また、6月中旬になると、ヒエ多発期となるので注意しましょう。



## 《田植え後の管理》

### ○水管理

活着するまでは田植えの時の根痛みで、根からの吸収能力が低下していますから、その影響を軽くし、苗の植痛みを防止することが大切です。活着するまでは葉先が2~3cm出る程度の深水としましょう。活着後は水温を上昇させるため、好天の時には水深2~3cmの浅水とし、気温が15℃以下となる低温や強風の時には深水とするなど、こまめな水管理に努めましょう。

### ○取り置き苗は早期に処分

取り置き苗は葉いもち病の発生源となります。田植えがすんだら取り置き苗はただちに処分しましょう。葉いもちを抑えることが穂いもちを抑えるポイントです。

### ○カメムシ防除のため6月上旬にも畦畔の草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は年3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果がありますので、地域一斉で行うとより効果的ですので計画的に実施しましょう。

### ※注意

農作業事故が増える時期になってきました。特に代かきから、田植えまでは畦畔が柔らかくなっていますので注意して下さい。疲れたら無理をしないように気をつけましょう。

